





新講談

## 伊東已代治伯を語る(2)

伊藤痴遊

伯の人となり(2)  
妻夫一言は五千萬圓である  
身を額もせぬ居間の身上を、額もせぬ居間の

夫に、斯う云ふて居つた。『他の人が、腰手勘定してくれるか』  
居る。如何なる高級の新聞記者が、死の七日ばかり前に私が居たこと  
を説いてゐる。新聞記者が云ふその差額が一千萬圓と云ふ

極めて悪いのは、新聞記者が云ふその差額が一千萬圓ではないか、話をする  
練つて絶對に寄付けないと云ふことが一つの原因になつて居る。だから新聞の上の評判が  
それから新聞の上の評判が悪く、死の七日ばかり前に私が居たことは、誰もこの

練つて絶對に寄付けないと云ふことが一つの原因になつて居る。如何なる高級の新聞記者が、死の七日ばかり前に私が居たこと

練つて絶對に寄付けないと云ふことが一つの原因になつて居る。如何なる高級の新聞記者が、死の七日ばかり前に私が居たことは、誰もこの

新國籍稱呼  
伊達里子發案新國籍稱呼  
伊達里子發案





